



陵陽

令和元年（2019年）12月25日（水） 第9号

❁❁ 札幌で学んでいるチャンスを活かして ❁❁

校長 高橋 利幸

一年の中で一番長かった2学期が終わります。明日から、オリンピックイヤーの令和2年を迎える冬休みがスタートします。

振り返ると、2学期の始まりは、30度近い暑い日が続いていた夏空でした。今は、雪が舞い散る寒さの厳しい毎日が続いています。陵陽のみなさんは、日々、学校生活の中で、たくさんの事を学び、友達や先輩・後輩と共に様々な活動を通して成長を続けてくれました。とくに、学校祭、合唱コンクールでは、それぞれの学年の特徴を発揮し、素晴らしい展示やステージ発表とともに、学級が一つになって大変美しいハーモニーも聞かせてくれました。

学校というところは、みなさんの頑張りが無限大に広がるとても素晴らしいところです。そして、令和2年には、是非とも皆さんに、夢を実現するための学びを一つでも多く経験してもらいたいと思うようになりました。

そのために、新しい一年を「札幌で学んでいるチャンスを活かした一年」にしてもらいたいのです。来年は、札幌にとって特別な一年になります。札幌のことについては、いつも住んでいる街にしか思えないという人がほとんどだと思いますが、改めて、考えてみると全世界が注目しているスポーツの祭典「東京オリンピック夏季大会」のマラソン・競歩やサッカーの試合など、3種目が開催されることになったことは大変な出来事だと思います。

今年を振り返ってもわかるように、本校から目と鼻の先にある札幌ドームにおいて、ラグビーワールドカップが開催されましたが、たくさんの外国人が観戦のために札幌を訪れ、ラグビーとともに、きれいに整備された大通公園や様々な施設、「サッポロ」という文字が全世界に知れ渡るきっかけとなっている「サッポロビール」、その他にも札幌でしか味わうことのできないお料理やスイーツを楽しんでいる様子が何度もテレビで放映されていました。本校に勤務するベンジャミン・ティチャーも、出身国であるオーストラリアチームを同じ国の人々と大きなジョッキを片手に大変盛り上がり応援する姿が、民放のニュースで流れていました。

実は、校長先生ですが、12月に一日お休みをもらって、今年も全校道徳でお話をいただいた、滋賀県立大学の福井先生を訪ねる機会を得ました。福井先生のご自宅は、滋賀県の近江八幡市の安土町という、織田信長で有名な歴史深い町にあります。琵琶湖の西岸地区を案内していただく中で、身近な地域が戦国時代の中心地であった証拠や遺跡が数多く点在していたり、隣町にはゆるキャラで有名なヒコニヤンのいる彦根城、メンソレータムの会社発祥の地であったり、札幌や北海道では感じる事ができない時代を受け継いだ町の存在をひしひしと感じて帰ってきました。

陵陽の皆さん、この冬休みを通して是非とも札幌という都市を見つめなおす機会にしてもらいたいと思います。そして、なぜ、オリンピックの開催都市として突然選ばれたのかを考えてみてください。皆さんの国際人が訪れる街として、どんな特徴があり、気が付かない便利さや札幌市の良いところを感じてほしいと思っています。四季を通じて、幅広く体験できるスポーツの数々や地下鉄、市電などの交通網の便利さ、たくさんのおいしい食材、文化施設等々……。素晴らしい特色を持ったこの環境を大いに活用して、大きな夢を実現するための本物の学びと努力を続ける新しい年を迎えてほしいと思っています。

健康・安全に気を配り充実した、冬休みを過ごし、3学期にはみんな揃って元気にスタートしましょう。

